

石造物調査によせて

調査協力員 古屋高治

今回古文書から石造物に至るまで、尊い体験で、今迄余り関心を持つていなかつた石造物にも注意するようになったことを有難く思つてゐる。

石地蔵、道祖神、庚申塔、馬頭観音等多種に亘る石造物は長い伝統と、厚い信仰のもとに守り続けられている。特に道祖神のお祭りに獅子舞をすることは共通しているが、横根、西高橋、塚原に就いては差があり、郷土研究にも得る処があつた。また大きな碑文には、現在使われていない文字があつたり、風化して読むことに悩んだり、真夏日を蚊に攻められ乍ら調べていると近所の人が蚊取線香を持って来てくれたこともある。銘文を見てこの偉大な石に、

どんな道具を使用したのかと思い乍ら碑石を計り写真を撮る。石鳥居の調査は又馴れない高所を計るのにも苦心が伴う。兎にも角にも、

あれ!! 素人の私も石造物に博学となつた氣分である。石造物よ、永遠に幸

(市史編さんを終えて)

調査協力員 山岡正夫

民族の伝承学が吾が国でも青年期に入り、その研究に専念する人が多くなつて來た。市町村や個人でも史料館を設立し、市町村史の刊行も多くみられる。然し社会情勢は旧来の習俗湮滅に加速度を加えてゐる。

特に農村地帯では過疎の防止と産業の発展と企業誘致のため道路

の改修、敷地造成が毎年加速されて、文化史上貴重な遺跡が破壊され、祖先が生きて來た信仰と生活の歴史と郷愁である石造物など平凡な石塊の如く取りかたづけられ破壊されていて、市史編さんに当り資料の調査、収集はまことに困難であつた。

天災地変が自然の現象であるとの知識がなく神仏や惡魔の祟りと信じ、庚申塔、山の神、水の神、風の神、道祖神、其他数えきれない信仰の象徴を細密に調査する度、貧苦に生き絶え、子孫のために生きて來た祖先を偲び敬虔な涙であつた。甲府市史は世界屈指の経済大国になつた吾国に生きてゆく人達に先祖崇敬と愛市の指針になることを信じて止まない。

石造物調査の思い出

調査協力員 金丸平甫

ふとした切つ掛けから甲府の住民でもないので、市の石造物調査の協力員に委嘱されてから、もうかれこれ四年以上にもなる。

以前から県内の歴史的な遺跡を見て歩くことは好きであったが、特に石造物を研究したことなどはなかつたので、始めのうちは調査方法などで戸惑つたが、試行錯誤を繰り返しながらだんだんと興味を持つようになつて來た。

調査の過程ではいろいろ珍しい石造物に出会つたが、以下に述べるものその一つ。

相生三丁目の光沢寺墓地の南隅にある無縁墓地の中央に、高さ一米七〇厘米の石碑が立つていて、正面中央の框彫りの中に「行路病院合葬墓」と刻み、下部に「行路病舎看守人・勲八等 福島高吉建